表紙制作者

福岡県立須恵高校
3年生
白木東幸（しらきつかさ）さん

聞き手

VIEW21 編集部
統括責任者
柏木 崇

熱中して描いたから気がついた、僕と学校にこれから必要なこと

柏木　今号の表紙を飾る素敵な絵を描いてくださって、ありがとうございました！　今回は、何かの教科・科目のオンライン授業の様子を絵にしてくださったんですよね。

白木　はい、書道のオンライン授業の様子を描きました。「芸術とは何か」について、先生の話を聞き、みんなで考えているシーンです。芸術作品は、できあがった瞬間には値段は決まっていなくて、見る人の評価によって値段が定まっていきます。でも、それは芸術作品だけのことではなく、店で売られている商品も、デザインなどの芸術の要素によって価値が変わります。授業では、そういったことを学びました。自宅でリラックスした状態で授業に参加したからか、先生の問いかけにも、いつも以上に自由な発想で答えられました。

柏木　芸術作品の経済的な価値がどのように定まっていくのかをオンラインでみんなで考えるなんて、書道の授業にこれまで以上に興味が湧きました。

白木　書道の授業のシーンを描こうと思ったのは、表現活動についての僕の考え方そのものに影響を与えた授業だったからです。縄文土器の文様は、当時の人々が世界観を共有するために施したものだという考えがあるそうですが、自分の思いを他者に伝えたいという人間としての根源的な衝動が、あらゆる表現活動の源なのだと、今回絵にした書道の授業を通して考えるようになったんです。

柏木　白木さんの今のお話を聞いて、他者に思いを伝えたいという根源的な衝動は、ＡＩが発達する社会でこそ、より価値を持つようになるかもしれないと思いました。

白木　僕もそう思います。そして、他者に思いを伝えたり、思いを実現するために行動したりする場としての役割が、これからの学校にはますます求められるのだと思います。ただ、絵に関して言えば、僕は知識をもっと身につけたいです。感性ももちろん大切だけれど、色彩や筆圧などの知識がまだまだ不足していると、描き終わった時に実感しました。描いている時はただただ楽しんでいましたが……。

柏木　好きなことを思い切り楽しんだ後に、これからの自分についての気づきを得たというわけですね。

白木　気づいたことはもう１つあります。絵を描きながら、僕はいろいろな人に助けられてここまで来たのだということを、はっきりと自覚したんです。だから、卒業式の日まで、後悔のないように、しっかり勉強したいと思っています。

柏木　表現活動を通して自分自身を見つめるという、素敵な経験をされたんですね。素晴らしい絵、そして素晴らしいお話を、本当にありがとうございました！

白木さんが制作した別作品（下）には、校舎に装飾された校章が背景に。「普段目にしている場所なのに、今回改めてとても印象的な場所だと感じ、絵にしたいと思いました」（白木さん）

白木さんが通う福岡県立須恵高校の取り組みを、今号の特集（P.16～19）で紹介しています。